

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年 1月 31日

事業所名 ドリームリフター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		基準を満たしている	
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		基準を満たしている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		取り外しのスロープを利用して車いすの対応が可能となっている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		定期的に職員が、打ち合わせを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		評価課題を今後の支援に活かしていく。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		年1回実施している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	第三者評価は受けていません。	第三者評価内容基準ガイドラインを参照し、運営に活かしています。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		研修計画を立て、参加を促している。 全体ではないが、場面場面で助言などがある。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		高学年となった子どもたちに、自分の将来について考えてもらい、それに必要な課題を計画に反映させている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		<input type="radio"/>	アセスメントツール集を参考にしている。	客観的な指標をもとに計画作成ができるようにしています。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		日常的な打ち合わせを行い、検討しています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>		年間・長期・短期での設定を心掛けています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		対面で出来ないこともあるので、連絡ノート等を活用して情報の共有を行っています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			
関係機関や保護	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		客観的な視点を心掛けている。 保護者との情報共有もできるよう心掛けている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		特に子ども自身の思いを反映できるよう心がけています。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	<input type="radio"/>			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>			
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	<input type="radio"/>		必要に応じ学校と連絡を取り、情報を共有し子どもたちの問題解決につなげている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		<input type="radio"/>	現在は対象となるお子さんは在籍していません。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	<input type="radio"/>		必要に応じ、連携を図っています。	
24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	<input type="radio"/>		必要がある場合は、提供している。		

者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	今年度はコロナ感染予防の観点から実施していません。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		犬山市自立支援協議会子ども部会に所属しており、リモートでの会議にも参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		家庭が基盤と考えており、申し出があればいつでも対応し、こちらからアプローチをかけることもある。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		必要に応じ行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会と共催で、イベントなどの交流会や親同士の懇談の場を設けていましたが、コロナ感染予防の観点から、今年度も実施を見送っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		24時間体制で情報を受け迅速な対応を心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月の便り、LINE・ホームページなどで情報を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		常に気持ちを新たに心がけています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		常に必要と考えています。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		今年度は、コロナ感染防止の観点から活動は行いませんが、何かと地域の方からのご支援をいただいています。		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		今年度はコロナに関する対策を組み入れています。コロナに関しては情報が錯綜しているため、今後も定期的に見直しをしていきます。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今年度もコロナ感染対応に追われていますが、様々な災害に必要な準備は整えています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		行政主催の虐待防止の研修で学んだ内容を全職員に周知できるよう事業所内研修をおこなっています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		命にかかわるような危険な状況の時や車いす乗車の安全確保の時等、身体拘束を行う場合の条件を設定し、個別支援計画書に記載とともに保護者様へ説明を行っています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		嘱託医によるエピペン使用法の講習会を行い、緊急時に対応できるよう心掛けています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例を生かし、危険予測力を向上させていきます。	